

健康スポーツ科目群の概要と目標

健康スポーツ部門会議主査
教育人間科学部 栗原 公

はじめに

教育審議会、大学改革協議会、大学審議会等の動向を考慮に入れつつ、文部省令大学設置基準の検討を進めるなかで、「保健体育のありかた研究委員会」は昭和63年12月20日に、次のような概略の報告をまとめるに至っています。

大学は、心身ともに健康な国民の育成を期するとの教育基本法の趣旨に則り、学術の中心として、広く知識を授けるとともに、深く専門の学芸を教授研究し、知的、道徳的及び応用能力を展開させることを、学校教育法で目的としている。大学における保健体育科目の開設は、学術の教育研究が健康な精神的・身体的条件との基本的なかわりのもとで進められるべきであることに基づくものである。

現代における科学技術の進歩、開発は、大学での教育研究の内容を質量ともに複雑化するとともに、広く社会経済活動の面においても、広範囲にわたる開発技術の浸透により諸条件の変化を生じさせ、これに対応するための教育ないしは生涯教育の必要性を、新しい時代の要請とさせるまでに至っている。それとともに、運動不足、ストレスの蓄積等、社会生活における非健康的要因が益々増大している。

このような状況のもとでのこれからの科学技術の発展は、国民が、ひろく、からだと運動との関係及び健康、体力と疾病とのかわりについての基本的な科学的知識とその応用力、実践力を備えて、心身の健康を生涯にわたって自ら管理し、増進していくことの必要性を強く自覚せざるを得ない時代を招来させようとしている。

保健体育科目は、大学での学生生活における健康管理のみを対象としたものではなく、学生にからだと運

動とのかかわり、環境衛生、また、健康と運動についての科学的な理解を習得させ、その実践を通して非健康的な要因の増大する現代ならびに近未来の社会における、生涯にわたる健康、体力の維持、増進を図ることを目指す。それとともに、大学における専門教育の成果を、各人が社会においてより確実に進展せしめようとするための条件を具えさせると同時に、スポーツ・身体運動の楽しみ、喜びを体験させ、これらとともに社会的・道徳的精神を涵養する。そして、学術の専門的能力とともに、将来の各層における有為な国民としての持つべき基礎的能力を習得させようとするものである。

以上のような報告がなされたが、本学の全学共通科目の健康スポーツ科目群においては、それらを十分に生かして実施されているものと考えられます。以下にその概要ならびに目標について述べてみます。

実施概要

本学では、保健体育科目を全学共通科目に位置づけ、「健康スポーツ科目群」という名称で実施しています。その中には、共通基礎として1年次に半期で1単位を取得するものと、展開科目として全学年にわたって半期で1単位を取得する「体育実技学類」ならびに全学年にわたって半期で2単位を取得する「体育講義学類」を開講しています。

①共通基礎科目「体育実技学類」

「健康スポーツ科学実習Ⅰ」の科目名で、1年次学生の必修科目として第1学期及び第2学期ごとの開講とし、各々の学期ごとの修了認定で1単位を取得できます。1コースの収容人員は55名前後で、学部また

は学科指定で授業時間が定められています。

平成14年度は第1学期に人文学部対象5コース、教育人間科学部対象4コース、法学部対象6コース、経済学部対象6コース、理学部対象4コース、医学部対象4コース、医学部・歯学部対象3コース、工学部対象5コース、農学部対象3コース、ならびに法学部・経済学部夜間主コース対象2コースを開講し、第2学期は教育人間科学部対象4コース、工学部対象6コースを開講しており、第1学期・第2学期合計で52コースを開講しています。そのうち37コースを専任教員が担当し、15コースを非常勤講師が担当しています。

実施場所に応じたスポーツ実習や各種身体運動を通して、自己の体力を認識しその増進を図るとともに、学生生活を送る上で必要な健康や体力の維持・増進の基盤をつくることを目的としています。また、汗する喜びやスポーツ及び運動の楽しさの再発見を求めながら、身体運動の習慣化のための知識や技能及び方法を学び、将来の健康づくりに資することも意図した内容も含み実践します。実施するスポーツ種目や内容等については担当教員により異なりますが、前述の目的や意図を達成すべく創意工夫をしながら実施しています。

②展開科目「体育実技学類」

「健康スポーツ科学実習Ⅱ（スポーツ種目名）」の科目名で、第1学期及び第2学期ごとの開講とし、学期ごとの修了認定で1単位を取得できます。1コースあたりの収容定員は48名を原則としていますが、実施する場所や種目により少人数になる場合もあります。全学部・全学年が対象で、定員に余裕がある場合は大学院生の聴講も可能です。

平成14年度は第1学期に18コース、第2学期に17コース、計35コースを開講しています。そのうち18コースを専任教員が担当し、17コースを非常勤講師が担当しています。

開講種目別では、球技（11種目）の他、野外での各種スポーツ（4種目）、トレーニング（2種目）、剣道、ダンスなどとなっています。

これら各種スポーツの技術の取得やゲームを通して、スポーツを楽しむ、享受する能力を高め、生涯スポー

ツの基礎を築くことを目的としています。そして、スポーツの持っている価値に気づき、スポーツに接近していくための動機づけを高め、さらにはルールやマナーといった規範も学習することになります。

ちなみに、平成13年度の定員充足率は80%強でした。

③展開科目「体育講義学類」

「健康スポーツ科学講義」の科目名で、第1学期及び第2学期ごとの開講とし、各々の学期ごとの修了認定で2単位を取得できます。1コースの収容人員は120名を原則としています。全学部・全学年が対象ですが、特に教育人間科学部と医学部では必修科目になっています。

平成14年度は第1学期に5コース（うち必修としている学部を対象として2コース）、第2学期に6コース（うち必修としている学部を対象として3コース）、計11コースを開講しています。そのうち4コースを専任教員が担当し、7コースを非常勤講師が担当しています。

大学での学生生活における健康管理のみならず、学生にからだと運動とのかかわり、環境衛生、また、健康・疾病と体力についての基本的理解を深め、社会生活における生涯にわたる健康、体力の維持増進について科学的に学習することを目的としています。

ちなみに、平成13年度の定員充足率はおおよそ90%でした。

到達目標

保健体育科目がその役割を発揮するためには、これら授業における相互の関連づけ、すなわち、保健と体育の理論を総合し、かつ、実技との一体化を図り、それらを有機的に結合させることが必要不可欠です。その結果である「到達目標」をあげると、次のようなものになります。

①健康スポーツ科学実習Ⅰ

- ・スポーツ・身体運動の楽しみ、喜びの体験
- ・媒体とするスポーツ種目の技術の習得

- ・日常、生涯における健康管理と体力増進のための科学的な理解とその実践
- ・スポーツ規範の遵守により社会的・道徳的精神の涵養を図る

②健康スポーツ科学実習Ⅱ（スポーツ種目）

- ・実施するスポーツの技術と能力の向上
- ・実施するスポーツのゲーム運営の理解と実際
- ・生涯を通じた身体活動の必要性とその科学的な理解
- ・集中的に実施する種目においては、教員と学生、学生同士の協調性を育む
- ・スポーツ規範の遵守により社会的・道徳的精神の涵養を図る

③健康スポーツ科学講義

- ・保健と体育・スポーツの理論を総合し、実技が必要であることの科学的根拠とその理解
- ・健康と体力、疾病と体力の関係についての科学的知識
- ・現代、近未来社会の衛生・環境問題の発生要因とその解決法
- ・精神衛生に対処する科学的知識
- ・ライフステージにおける生涯の健康と生活設計の立案

おわりに

本学の全学共通科目「健康スポーツ科目群」の概要ならびに目標を述べてきましたが、同科目群は、保健と体育・スポーツの理論を総合し、かつ、実技との一体化を図り、これらを有機的に結合させることへの努力と、現代から近未来の時代に向けて欠くべからざる役割と要請を担った科目群であることを十分に自覚して、教員自らの創意と工夫において教育に精進していきます。

保健体育科目は、学生生活における健康管理のみを対象としたものではなく、生涯にわたり、その実践を通して大学における専門教育の成果を各人が社会においてより確実に進展せしめようとするための条件を具

備させると同時に、スポーツ・身体運動の楽しさ、喜びを体験させ、社会的、道徳的精神を涵養するところがあり、学術の専門的能力とともに、将来の各層における有為な国民として持つべき基礎的能力を習得させようとするものです。

そして、生涯にわたり、健康で豊かな生活を築くためには、生活のなかでの余暇時間の活用がそれを左右するものと考えます。その時間を、人生を楽しく豊かにし、生きる喜びを体得でき、健康な身体を作る時間に活用し、有為な国民として社会での貢献を期するものです。

そのためには、本学での全学共通科目の果たす役割がその要請に応えるものであって、各科目を担当する教員はもとより、大学自体としても十分に自覚して、創意と工夫において築いて行かねばならないことであると考える。

参考資料

昭和63年12月 保健体育のあり方研究委員会報告

平成14年度 全学共通科目講義概要